阪神医療生活協同組合　小中島支部

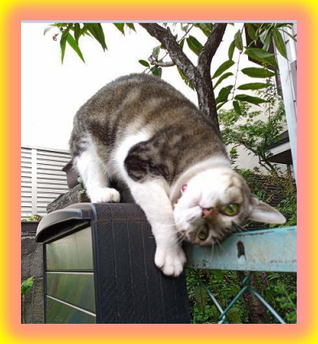
きらめき 2020 12月号 No.63

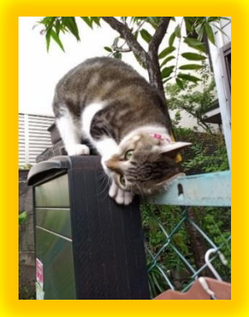
発行：阪神医療生活協同組合
小中島支部編集委員会

我が家の家族・自己紹介します

私の名前は“MI－KO”です。2年半前、墓地ですて猫でした。それを通りかかったママが連れて帰り育ててくれています。食餌以外は外遊びが大好きで、お腹がへると玄関でママが開けてくれるのを待っています。何せ生まれついてからいたずらが好きで紙を破ったりママの手をかじったり、目が離せません。こんな私ですが高齢者のママを見守って共に暮らしていこうと思っています。

（岡田　澄江）





コロナ禍での支部活動

10 月の支部委員会でウィズコロナの不自由な生活の中、85 歳以の組合員の名簿が提示され、安否確認が必要ではと、委員の皆さんで検討して施設に入居されていたり、既に死亡しておられたりという方がおられました。今は訪問活動が出来ない中、手分けして電話をページ毎にかけましょうという事になりました。11月の支部委員会で報告があり名義変更や増資に繋がりました。

胡摩田　睦子

グループ活動の現状

10月より活動再開のグループ
- ふれあい食事会
- 土曜日　仲良し会

11月より活動再開のグループ
- （木）生き生き 100 歳体操
- 地域グループ　ドーナツの会

積み立て増資をしているグループ
- 図書グループ　あじさい
- 健康老人クラブ　くるみ会
- 生き生き 100 歳体操
- 仲良し会

喫茶フレンドリー　：　年内は12月11日までで新年は1月12日からです。

来年のフレンドリー映画会案内

第1水曜 9 時半から

1月　青い山脈
　　吉永小百合、浜田光夫

2月　上海帰りのリル
　　水島道太郎、香川京子

3月　陽のあたる坂道
　　石原裕次郎、北原三枝

第7回小中島支部文化祭開催

11月2日（月）、3日（火）小中島支部第7回の文化祭を開催しました。新型コロナの影響で一時は開催が危ぶまれていましたが、3密を避けるために展示スペースに余裕を取る意味で中央には何も置かず、また皆さんが楽しまれるお茶菓子の配布もなくすという工夫をすることで、開催にこぎつけました。少し寂しい文化祭になるのではと心配していました。案の定、展示数は48品で昨年の半分以下、来場者も初日は雨で、2日合計で100人弱でした。でも今回特徴的だったのは出品内容と見学者の皆さんです。初日は園田苑の小規模多機能型居宅介護＆認知症対応型デイサービスZen利用者の皆さん、二日目はサポートセンターゆんたくの皆さん。合同で制作した大きな作品を出品していただきました。紙面の都合でほんの一部ですが、当日の集合写真や作品の一部をご覧ください。

第２回おその探検隊

災害時にも役立つ！「パッククッキング＆カードゲーム」

（山崎　洋子）

今回は、洗い物を出さない方法での蒸しパン作り（災害時でなくても役立ちます！）と、カード遊びをしながら防災のミニ知識を学びました。また、災害用伝言ダイヤルの体験ができる日ということもあり、実際にメッセージを残す体験も。低学年の子どもが多く、少し難しい内容もありましたが、みんなでワイワイやりとりをして楽しい時間になりました。

来年も、まち歩きやみんなで楽しく学べるイベントを計画中です。初めての方のご参加はもちろん、私たちと一緒に企画に関わってくださる方も絶賛募集中です！！

11月10日、尼崎市子どもの育ち支援センター“いくしあ”見学会を実施しました

今回の見学会、新型コロナの関係で予定より半年以上遅くなり、でも市の桑田さんのおかげで実現できました。「いくしあ」は0歳からおおむね18歳までの子どもの育ちを切れ目なく継続的に支える総合施設として、昨年秋にあまがさきひと咲プラザに開設。発達相談や教育相談など多くの人たちがいろいろ相談が出来るよう沢山の相談室があります。なぜか各階の壁の色が違いました。一階はアイボリーで、「地」を表し、「理解する・つながる」をテーマに、2階はグリーンで、「森」表し、「活動する・広がる」をテーマに、3階はブルーで、「空」を表し、「発見する・はばたく」をテーマにしていると説明がありました。

さすが2年前に関西の住みやすい街ランキング1位に選ばれた尼崎市、これからも尼崎の子どもたちの育ちをかげから支えてもらい、増加傾向にある虐待や不登校が少しでも減ってくれるのを願うばかりです。見学の後、参加者の皆さんで見学の感想、最近思う事、日ごろ地域活動をしていて感じる事、悩みなどなどを自由に話し合いました。以下参加された皆さんの声です。　（世話役）

・10月11日、いくしあ見学ありがとうございました。いろいろ設備、教室、案内してもらい感心しましたと同時に教室を有意義に使っていただき、良い社会になることを願います。　たかはしさちこ

・手厚い相談・検査体制を初めて目にしました。施設の充足と比例して、発達障がい、不登校、いじめなど、社会的に子ども、親の不安が広がっているのだろうと感じました。相談窓口で色々な内容を広範囲に相談できるので、まずはいくしあへ（特に小田、園田地区にお住いの方は）というような広げ方が良いのではと感じました。連絡内容に対する対応事例なども紹介してもらえると、地域住民の信頼度がより高まると思います。これから益々、行政と地域の連携が大切になると思います。阪神医療生協としても今回のような研修を積極的に企画していくことが子ども（親）の安心につながると感じました。　塩見有生

・参加者のお一人お一人がさまざまな地域活動に参加されていることがわかり、とても勉強になりました。私ももう少し地域活動に参加したいと思いました。（業務上余裕がなくて・・）

服部　佐江（「園田南」地域包括支援センター）

・三つ感じました。一つはあちこちにスロープがあること。危険じゃない。元の聖トマス大学からこのセンターを作る際の費用削減の為でしょう。二つ目は各部屋が利用する子供たちが楽しく過ごせるようにいろいろ工夫されていること。三つめは女性職員さんが皆お若いこと。考えてみれば相談相手のお母さん役だから当然のことと実感。（冨松）

・立派すぎる施設だ。「課題」を抱える子どもとその親の心配事や悩みに応えようとする尼崎市の積極的な意欲を感じる。問われているのは、私たちの暮らしている地域が、多様性を持った子どもたち、その親たちが、ありのままで生き生きと暮らしていける地域なのか？
阪神医療生協が目指す 24 時間 365 日安心して暮らせる助け合いのある地域とは、多様な子供たちがすくすく育つことのできる地域だと思う。

松上　辰之

・最初にいくしあ川村氏より施設の概要と支援センターの相談業務説明を受けた後、1F（主に相談を受けるフロアー）、2F（子どもが体を動かす地域と交流するフロアー）、3F（子どもの可能性を支えるフロアー）を案内して頂きました。すべて多様性を重んじた設備が揃って、職員も 100 名近くいらして感動しました。
おおむね 0 才～18 才まで利用可能ですが、子どもたちものびのびと楽しく過ごせるお下手が沢山あり、ご家族も安心し、相談できると思います。特に小学校入学前が大事な時期とのお話でした。また児童相談書よりハードルが低く強制力はありませんが子どもファーストにてサポート頂ければ幸いと思います。
続いて交流センター見学後、社協の方、ケアマネジャーも同席され感想発表し、又組合活動については積極的に行政の関与を求め、コロナ終息を願いながら、つどいば・ボランティア活動等、特に男性の方々を呼び掛けたいとのことでした。　桑田　道子

・百聞は一見に如かずといいますが、どんなところかイメージがつきませんでしたが見学してわかりました。
発達障害があることなどを早く発見することで小学校に入ってから学校に馴染めず困ったりすることが少ないように、ちょっ気になることがあれば入学前に相談してみるといいところだと思いました。
毎日、20 人くらいの相談があるそうで気軽に訪ねていけそうなところです。　小城　直樹

小中島診療所からのお知らせ

・インフルエンザワクチンについて
今年ワクチン実施できなかった方、13 歳未満の 2 回目実施希望の方、入荷次第ホームページに掲載させていただきますのでご確認ください。
・発熱・かぜ症状の患者様の診察時間を分けています。小児科内科の方は受診前に診療所にご連絡ください。
ご協力よろしくお願いします。

発熱は通常外来と時間帯を分けて実施しています。時間帯分離と空間分離のためにテントを使用しています。テントで発熱者の方を待ってもらったり、検査をそこでします。

ふれあい食事会は 10 月 13 日から再開。参加者の飛沫感染防止のためにビニールカーテンとスタンドを設置しています。

イベント中止のお知らせ

新型コロナの関係で愛逢との合同お餅つき大会、新年会それと雪まつりは中止です。写真は前回のものです。